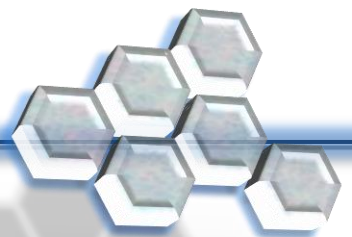


かまくら教育プラン

平成24年度取組状況



《 目 次 》

基本方針1

子どもたちが安心して学び生活できる、安全で開かれた学校づくりを進めます

- 目標1-1
子どもたちが教師や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送れるよう取り組みを進めます _____ 1
- 目標1-2
家庭、地域と協力して、すべての子どもたちが安心して過ごせる安全な学校にするための取り組みを進めます _____ 3
- 目標1-3
家庭、地域との連携のもとに、信頼と相互交流をいっそう進める「開かれた学校づくり」に努めます _____ 6

基本方針2

子どもたちの学習意欲を高め、確かな学力の向上をめざします

- 目標2-1
学習の基礎・基本を定着させ、「わかる授業」をよりいっそう徹底させます _____ 7
- 目標2-2
学習に対する子どもたちの興味・関心・意欲を引き出し、自ら学ぶ気持ちをはぐくみます _____ 9
- 目標2-3
子どもたちがさまざまな体験を通じた学習をすることにより、自ら考える力と行動する力を身につかせます _____ 11
- 目標2-4
子どもたちが鎌倉の自然、歴史、芸術、文化などの学習を通して、郷土を愛する心をはぐくみ、国際的な視野を広げる取り組みを進めます _____ 12

基本方針3

子どもたちに社会性・道徳性を身につけさせ、共に生きる心をはぐくみます

- 目標3-1
子どもたちが日々の活動や地域の人々とのふれあいを通して、感謝する心や思いやりの心、譲り合いの心をはぐくみ、社会性や道徳性を高めるよう指導します— 13
- 目標3-2
学校は家庭や関係機関との連携をいっそう深め、子どもの心の問題の解決に向けた取り組みを推進します _____ 15
- 目標3-3
障害のある人もない人も共に学び育つことを喜び合える環境づくりを進め、共に生きる社会の大切さを理解させます _____ 16
- 目標3-4
子どもたちの豊かな成長のために、家庭、幼稚園・保育所、学校などが連携し協調して、連続性のある取り組みを進めます _____ 18

基本方針4

子どもたちの心と体を健やかに成長させ、豊かな感性を養います

- 目標4-1
家庭と連携して子どもたちに正しい生活リズムと生活習慣を身につけさせ、心身の健康の増進を図ります 19
- 目標4-2
子どもたちに体を動かすことの大切さを認識させ、運動能力や体力の向上に向けた取り組みを進めます 20
- 目標4-3
家庭と連携して「食育」に取り組み、子どもたちの健康の基盤づくりを進めます 21
- 目標4-4
子どもたちが芸術活動や文化活動を通して、豊かな心をはぐくむことができるよう取り組みを進めます 23

基本方針5

安心して子育てができる環境づくりを進めます

- 目標5-1
子育ての楽しさや喜びを感じられるよう、関係機関や子育て支援団体などによる、支援のネットワークを充実します 25
- 目標5-2
子どもたちが安全に安心して外遊びができるよう、地域と一体となって、遊び場の環境づくりを進めます 27

かまくら教育プラン 平成24年度取組状況について

5つの基本方針に基づく17の目標に対しどのように取り組んだかについて、〔小・中学校における主な取組〕、〔小・中学校の特長ある取組〕、〔成果・課題〕、〔市や関係機関における取組〕の4項目に分けて掲載しています。

なお、〔小・中学校の特長ある取組〕及び〔市や関係機関における取組〕内で(★)と書かれているものは、今回から新たに掲載した取組です。

基本方針1	子どもたちが安心して学び生活できる、安全で開かれた学校づくりを進めます
-------	-------------------------------------

目標 1-1	子どもたちが教師や友人との信頼関係を築き、楽しく元気ある学校生活が送れるよう取り組みを進めます。
--------	--

〔小・中学校における主な取組〕		24年度 取組率
学級指導	集団の中で、好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒の心身の健康・安全の保持増進や健全な生活態度の育成を図るために、食の指導、保健指導、安全指導などの取組を行いました。	小・中学校 100%
児童、生徒指導の充実	全ての教育活動において一人ひとりの児童生徒のよりよい発達と自己実現を助けるよう指導を行いました。また、全ての教員が子どもへの適切な指導を行うために、情報共有、会議・研修において指導方針についての確認の場を設け、情報交換と研修を行いながら一人ひとりの児童生徒の様子を把握し、指導と支援に努めました。	小・中学校 100%
教育相談	児童生徒一人ひとりもっている人間関係や精神的な問題、学習・生活などの教育上の問題について、本人又はその保護者などからの相談を受け、望ましいあり方について指導・助言を行いました。	小・中学校 100%
生活等アンケートの実施	児童生徒一人ひとりを把握し、教育相談等の資料とするために生活面、学習面、いじめに関するアンケートを実施しました。	小・中学校 100%
あいさつの励行	互いに気持ちのよいあいさつを交わすことができるよう、学校全体で組織的に取り組みました。	小・中学校 100%
ケース会議における情報交換、チームによる支援	支援を必要とする児童生徒の状況を把握し、職員会議、研修会、ケース会議において支援方法の確認とチームによる支援を実施しました。	小・中学校 100%
関係機関との連携	支援を必要とする児童生徒について、センター相談室や相談機関、医療・福祉関係機関、県立特別支援学校などと連携し支援を行いました。	小・中学校 100%
スクールカウンセラー等による相談体制	児童生徒及びその保護者に、心のふれあい相談員、スクールカウンセラー等の配置を周知し、相談体制づくりに努めました。	小・中学校 100%
相談ポストの設置と活用	相談ポストを設置し、児童生徒の悩み等に対応できる体制づくりに努めました。	小・中学校 100%
異学年との交流活動	低・中・高学年のブロックごとの交流や、たてわりグループでの活動を通して、異学年との交流を図り、楽しい学校生活を送れるように努めました。	小学校のみ 100%
部活動	生徒の自主的、自発的に行われる部活動では、スポーツや文化・科学等に親しみせ、学習意欲の向上や責任感、連帯感が持てるよう、日頃の教育活動との関連を図りながら、生徒にとって充実した活動ができるよう努めました。	中学校のみ 100%
進路指導	生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、学校の教育活動全体を通じ、3年間を通して計画的・組織的な進路指導を行いました。	中学校のみ 100%

いじめ対策として、全校で取り組める「アンケート」を行いました。
県立特別支援学校の先生を講師として招き、支援を必要とする児童・生徒に対して指導の仕方を助言してもらいました。

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

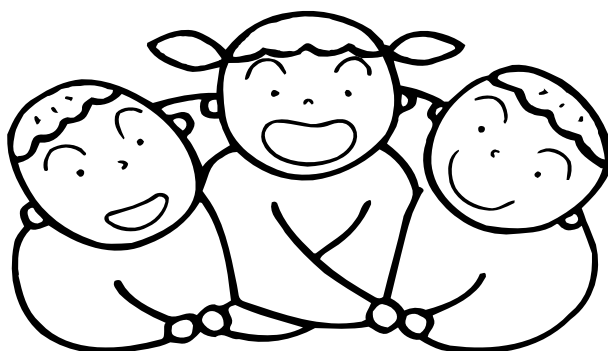
- ・相談体制の充実を図り、学校・家庭・関係機関との連携がより進められました。
- ・あいさつ運動やたてわり活動を通して好ましい人間関係の育成を図りました。

○平成24年度の取組を通して課題と考えられること

- ・児童生徒指導、保護者・地域からの意見要望、また、校務分掌事務の対応等が増加し、教職員の多忙化が進んでいます。
- ・授業時間が増え、教育相談等子どもと向き合う時間の確保の工夫が必要です。

〔市や関係機関における取組〕

教育支援教室「ひだまり」	<p>教育支援教室「ひだまり」では、不登校の児童生徒に対して、小集団で教育支援・学習支援の他、進路相談等を行いました。</p> <p>通室登録児童生徒数 8名</p>
個別教育支援	<p>不登校等の児童生徒のため、個別の教育支援・自立支援等を相談室で行いました。</p> <p>延べ 273件</p>
子どもの相談機関紹介カードの配布	<p>市内の小中学校及び高等学校の児童生徒に『つらいこと、ひとりで悩んでいませんか?』と題した子どもの悩みに対応する複数の相談機関の電話番号を記したカードを配布し、相談機関の紹介と周知を行いました。(19,000枚配布)</p>
小中一貫教育検討委員会	<p>鎌倉市教育課程編成の指針作成委員会により、「鎌倉市教育課程編成の指針」の一部となる、指導計画例(案)を作成しました。</p>



目標 1-2

家庭、地域と協力して、すべての子どもたちが安心して過ごせる安全な学校にするための取り組みを進めます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

登下校の見守り(PTA)	児童生徒の登下校時の安全について、保護者と連携(PTA校外委員会など)して実施しました。	小・中学校 88%
登下校の見守り(地域)	児童の登下校時の安全について、地域の人々による見守りを依頼をしました。	小学校のみ 94%
安全な通学路づくり	教職員、校外委員などが通学路の安全点検を行い、改善の必要な箇所を、教育委員会に報告しました。 また、必要に応じて教職員が通学路の要所に立つなど、登下校指導を実施しました。	小・中学校 100%
安全点検	定期的に、教室・校舎施設・校庭・遊具等の安全点検を実施しました。	小・中学校 100%
避難訓練	地震、津波、火災等を想定した避難訓練を実施しました。	小・中学校 100%
防犯・安全対策	安全管理マニュアルの検討・作成、門・昇降口の施錠、防犯用具の校内設置、安全指導講習、不審者侵入対応訓練等の防犯・安全対策を講じました。また、災害時等の緊急連絡方法を電話だけでなく、メール配信等複数の体制づくりをしました。	小・中学校 100%
学区内自治会、民生委員、青少年育成団体等との懇談・交流	学区内自治会長等、PTA役員、校外委員、民生委員、児童委員等と地区や児童生徒の現状と課題等についての懇談、自治会長と児童の給食交流、避難所施設の確認等を行いました。	小・中学校 92%
安全マップの作成	交通事故発生場所や危険箇所、不審者の出没箇所、暗い道などを取り上げて安全マップを作成し、児童生徒の安全と安心を保つための指導に役立てました。	小・中学校 72%
心肺蘇生法研修会	鎌倉消防署救急隊員を招いて心肺蘇生法(AED使用法含む)の職員研修を実施し、指導の安全に努めました。また、児童生徒、保護者対象の心肺蘇生法の研修も行い、AED操作技能を高めました。	小・中学校 92%
救命救急講習会	救命救急の知識と技能を身に付けるため、救急救命講習会を開催しました。	中学校のみ 89%

〔小・中学校の特長ある取組〕

熱中症予防のための講演会を開催しました。
自転車等への防犯プレートの設置により、地域での見守りが強化されました。
児童生徒の登下校時に、教職員が通学路の要所に立ち、登下校の指導を行いました。このことにより、保護者には安心感が生まれてきています。
緊急時・災害時における保護者へのメール配信を整備しました。
(★)保護者からの要望に対応し、防災用品である防災頭巾をヘルメットに変えました。
(★)津波対策として避難場所への逃げ地図づくりを行いました。
(★)清掃時間などあらゆる場面を想定した避難訓練を実施しました。

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

- ・避難訓練の回数を増やし内容を改善することによって、子どもたちの津波に対する防災意識が高まりました。
- ・不審者侵入訓練を計画、実施し安全教育の充実が図られました。

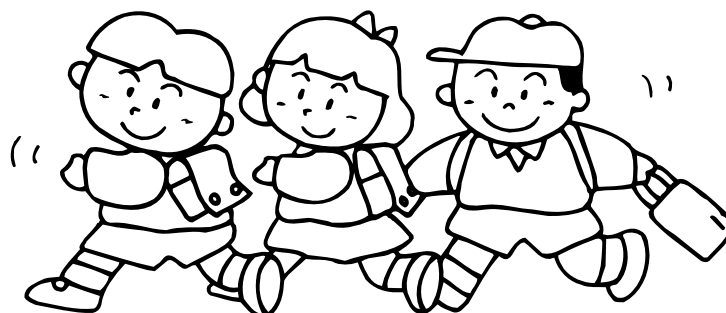
○平成24年度 of 取組を通して課題と考えられること

- ・緊急時における複数の連絡方法について検討を進めました。
- ・地域と連携した防災対策の実施が必要です。

〔市や関係機関における取組〕

ピーガル君の家・ こども110番の家	地域において、子どもたちを犯罪から守り、子どもの保護や救護、さらには不審者を発見した際の110番通報を依頼する避難場所を充実しました。警察と防犯協会が取り組んできた「ピーガル君の家」のほかに、各学校のPTAや保護者会の校外活動として「こども110番の家」もあり、これらによって地域における子どもの安全確保が進められました。さらに、「こども110番の家」だけでなく、自転車や自動車に「こども110番」や「パトロール中」のプレートをつける活動も行いました。
防犯ブザーの配付	小・中学生が不審者等から身を守るため、市内在住・在学の小学校1年生に防犯ブザーを配付しました。
児童虐待防止に関する関係機関との連携	児童虐待防止に関しては、こども相談課及び児童相談所等との連携を図りました。
児童生徒に対する交通安全教育の実施	交通事故防止を図るため、新入学児童を対象とした「道路の正しい歩き方教室」(25回、1,710人参加)や「自転車の安全な乗り方教室」(小学校16校・児童1,291人、保護者915人参加)を開催しました。また、警察等の関係機関と連携して、交通安全意識の普及・啓発に努めました。
スクールゾーン等の対策	平成20年度に、警察・藤沢土木事務所・市P連・市関係課等からなるスクールゾーン等交通安全対策協議会を設置し、関係機関相互の連携を強化し、交通安全対策を実施しています。平成24年度は、第一小学校区ほか10校区で、交差点や歩行空間のカラー化、スクールゾーン標示の設置等の対策を実施しました。
防犯教室の開催	警察等と連携し、小・中学生の各年齢に適した防犯教室を実施しました。 非行防止教室 12回 薬物乱用防止教室 9回 サイバー犯罪対策安全教室 2回
防犯対策	警察等と連携し、児童生徒・教職員等への誘拐連れ去り防止教室や不審者侵入対策訓練等を実施しました。 誘拐連れ去り防止教室 20回 不審者侵入対策訓練 23回
鎌倉市安全安心まちづくり推進協議会	平成20年6月に策定された「安全・安心まちづくり推進プラン」に基づく各事業の進捗状況の確認及び取り組みの推進等を諮りました。 研修会 1回

<p>犯罪情報等の提供</p>	<p>防犯意識の普及・啓発を行うため、市のホームページなどを活用した犯罪発生状況や不審者等の情報提供及び登録者のパソコン・携帯電話に不審者や注意喚起等の情報をメール配信しました。</p> <p>メール配信回数 51回（不審者情報29件 注意喚起情報22件）</p>
<p>登下校時の見守り活動</p>	<p>地域住民や警察と連携協力して見守り活動を推進しました。</p> <p>登下校時見守り活動 282回実施</p>
<p>防犯パトロール</p>	<p>青色回転灯を装備した防犯パトロール車4台態勢で通学路を中心とした防犯パトロール、子ども関連施設の立ち寄り警戒等を実施しました。</p> <p>防犯パトロール 3,555回 子ども関連施設立ち寄り警戒 5,575回（保育園・幼稚園を除く回数）</p>
<p>学校施設維持整備事業</p>	<p>学校施設の維持整備に当たっては、児童生徒に安全で快適な学習環境を提供するとともに、生活の場としてのゆとりと潤いのある環境づくりに努める必要があります。このため、大船中学校の改築事業を推進するとともに、各学校のトイレ改修や各種の工事・修繕を行い、質的・機能的な面での向上を図るよう取組みました。</p>
<p>小学校に警備員を配置</p>	<p>児童の登下校時及び授業中の学校施設内の安全確保を図るため、専門業者への委託により市立小学校全16校に警備員を常駐させ、警備を行いました。</p>
<p>普通救命講習会の開催</p>	<p>重篤な傷病者が発生した場合に、心肺蘇生法、止血法、AEDによる除細動などの救命手当が速やかに行えるように、小・中学校の教職員を対象に講習会を開催しました。また、熱中症についても知識を深めました。</p>



目標 1-3

家庭、地域との連携のもとに、信頼と相互交流をいっそう進める「開かれた学校づくり」に努めます。

24年度
取組率

〔小・中学校における主な取組〕

開かれた学校づくりの取組「学校評議員制度」	保護者や地域住民から「学校評議員」を置き、学校運営に関する意見を聞きました。	小・中学校 96%
開かれた学校づくりの取組「学校評価」	児童生徒や保護者アンケートを参考にしおこなった教職員による自己評価の内容を、学校関係者(学校評議員等)による評価を行い、次年度の学校運営に参考としました。	小・中学校 100%
開かれた学校づくりの取組「学校へ行こう週間」	保護者、地域住民が、いつでも学校を訪問し児童生徒の活動を参観できるよう取り組みました。	小・中学校 100%
「学校だより」や「学年だより」の発行	教育活動の情報発信として「学校だより」や「学年だより」を発行し、保護者や地域住民へ配付等しました。	小・中学校 100%
授業参観と学級懇談会	授業公開とともに、保護者と担任との話し合いや情報発信・共有をしました。	小・中学校 100%
家庭訪問・地域訪問	担任が児童生徒の家庭や地域を訪問して、家庭での様子や学校での様子について保護者と話し合いや情報共有を行いました。	小・中学校 100%
地域教育力の活用	生活科、総合的な学習の時間を中心として地域教育力の活用を図るとともに、学習発表会や作品展等の参観など、交流を深めました。	小・中学校 100%
地区行事(市民運動会・まつり等)への参加	市民運動会や地域のおまつり等を通して、自治会・町内会や地区子ども会の活性化を図ると同時に、PTA校外委員会も地区行事をそれぞれの立場から参加し、地域との連携を図りました。	小・中学校 92%
PTA(保護者会)の活動市P連との連携	PTA(保護者会)活動として、運営委員会、校外、学級などの各委員会が学校と協力して活動しました。市P連と連携し、子ども達の健全な育成のため家庭、地域、学校が協力して活動しています。	小・中学校 92%
学校区での教育懇談(話)会の開催	学校区での教育懇談(話)会を開催し、小・中教職員代表、PTA役員、自治会長、民生委員、青少年指導員等が地域での様子、地域と学校のあり方等を話し合いました。(教育講演会や懇談会等も含む)	小・中学校 84%
学校ホームページ	学校ホームページにより情報提供を行っています。	小・中学校 100%
地域への情報発信	学校内や地域の掲示板で、PTAの活動や児童生徒の日頃の活動の様子を紹介し、学校への理解や協力を深めてもらえるよう努めました。	小・中学校 100%
アンケートの実施	教育活動の充実や改善に役立てるため、学習発表会、学校公開、文化祭、学校へ行こう週間などで保護者や地域住民を対象にアンケートを実施しました。	小・中学校 100%

〔小・中学校の特長ある取組〕

地域の方や保護者も含めた「おやじの会」とともに、学校の営繕作業の実施や行事等の支援をいただきました。
中学校の美術部が、夏休みに地域の小学生に絵画指導を行いました。
音楽会を地域との連携で行い、地域の中で子どもたちの成長を見守り、地域の教育力を高める活動を行いました。
学校評価の結果がわかりやすくなるよう保護者アンケートの項目を見直しました。
保護者へ配付文書を知らせるメール配信を行いました。
(★)土曜参観の回数を増やしました。

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

- ・授業参観、土曜参観、学校へ行こう週間等、保護者や地域の方が教育活動を参観できる機会を通して学校への理解を深めていただくことができました。
- ・地域の方々との教育懇談会を開催し、よりよい情報交換ができました。
- ・学校便り、給食便りや保健便りのホームページの更新を定期的に行いました。

基本方針2	子どもたちの学習意欲を高め、確かな学力の向上をめざします
-------	------------------------------

目 標 2-1	学習の基礎・基本を定着させ、「わかる授業」をよりいっそう徹底させます。
---------	-------------------------------------

〔小・中学校における主な取組〕		24年度 取組率
言語活動の充実	思考力・判断力・表現力の向上のため、計画的に言語活動を授業に取り入れるよう努めました。	小・中学校 100%
指導方法の工夫・改善	「分かる授業」を目指し、各教科や学年において協働で教材の開発・使用をするとともに、日常の学習指導において効果的な指導方法の工夫を行い、学力の定着・向上に努めました。	小・中学校 100%
学習(教育)相談	長期休業中、定期テスト前、放課後等に児童生徒の学習(教育)相談を受け、個々に指導・支援を行いました。	小・中学校 92%
校内での研修	教育課程や今日的課題について、研究・研修担当が中心になって研修計画を作成し、組織的に校内研修の充実に努めました。また、教育課題指定研究や校内研修充実事業などの研究研修事業に取り組みました。	小・中学校 100%
読書活動の取組	朝の時間等を活用して読書活動に取り組みました。また、読書活動推進のため「学校図書館専門員」や「読書活動推進員」による児童生徒への読み聞かせやブックトーク、図書紹介、図書室での事務や整理が行われました。	小・中学校 100%
外部講師(ゲストティーチャー)による授業	必要に応じて、外部講師を各教科や総合的な学習の時間等の授業に招き、専門技術や専門知識を披露してもらい、児童生徒の興味・関心を高めるよう努めました。	小・中学校 100%

〔小・中学校の特長ある取組〕
児童生徒の習熟状況や学習課題をもとに、複数の学習集団に分けて授業を行いました。このことにより、子どもの実態や指導の場面に応じて、「個に応じた指導」がより可能となり、基礎・基本の定着と児童生徒の興味・関心等に応じた発展的・補充的な学習ができました。
大学生のボランティアやインターンシップにより、配慮を要する児童を中心に学習の支援を受けました。
学年をチームとした算数における横割り授業を行いました。

〔成果・課題〕
○平成24年度の取組を通して成果と考えられること
<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の充実により、思考力・判断力・表現力等の育成を通して確かな学力を高めました。 ・校内研修会に外部講師を招聘し、教員の授業力向上や指導法改善を行うことができました。 ・学校図書館専門員や図書ボランティアの活動により、読書活動の推進と図書室の環境整備が図られました。
○平成24年度の取組を通して課題と考えられること
<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の必要な児童生徒への対応に人的支援が必要です。 ・校内研究がマンネリ化にならないよう常に見直しが必要です。

〔市や関係機関における取組〕

教育課程研修会	教育課程に関わる内容についての理解を深め、諸問題の解決を図ることを目的とし、小・中学校教職員を対象に研修会を行いました。「『学力の三要素』と授業改善」「思考力・判断力・表現力を育成するための評価」の内容で、2回開催し、54名の参加がありました。
理科・総合等研修会	理科や総合的な学習の時間等、授業に関わる内容を取り上げ、指導方法の工夫やポイント、教材の開発等について小・中学校教職員を対象に研修会を行いました。「安全な化学」「地域教材の活用」などの内容で3回開催し、40名の参加がありました。
小学校英語活動研修会	小学校英語活動についての研修会を小・中学校の教職員を対象に実践的な内容で1回開催し、7名の参加がありました。
(★)授業力向上研修会	小・中学校教職員、幼稚園教諭及び保育園保育士を対象に、実践的指導力を高め、今日的な課題解決につながるような研修会を行いました。学級経営や授業の進め方等についての内容で4回開催し、102名の参加がありました。
読書活動推進員の派遣	学校において児童生徒が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくための読書活動が行えるように、読書活動推進員を派遣しました。 読書活動推進員5名 中学校9校へ派遣
学校図書館専門員の配置	各学校専任の学校図書館専門員を配置し、児童生徒への読書活動のいっそうの推進のためのブックトークや読み聞かせ、図書紹介などをはじめ、図書室での事務や管理に当たるとともに、学校図書館の充実を図りました。 学校図書館専門員 小学校16校へ16名配置
小学校市費負担非常勤講師の配置	小学校第2学年で少人数学級編成(1学級35人以下)を実施し、学習及び生活面のきめ細やかな指導の推進・充実を図るために、小学校市費負担非常勤講師を配置しました。 小学校市費負担非常勤講師 小学校7校へ7名配置
小中一貫教育検討委員会(再掲)	鎌倉市教育課程編成の指針作成委員会により、「鎌倉市教育課程編成の指針」の一部となる、指導計画例(案)を作成しました。



教員の指導力向上の研修

目標 2-2

学習に対する子どもたちの興味・関心・意欲を引き出し、自ら学ぶ気持ちをはぐくみます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

少人数指導・TT指導	学級を一つの大きな集団から複数の小集団に分け、それぞれの集団の中でより個に応じたていねいな指導ができる「少人数の指導」や、複数教員が協力し合って指導を行い、子どもの多様な思いや願い、興味・関心、個性的な学びに手厚く応えるよう「ティームティーチング(TT)による指導」に取り組みました。	小・中学校 100%
総合的な学習の時間	自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとして、授業を進めました。児童生徒や地域の実態に応じて、環境教育、福祉教育、情報教育、国際教育、職場体験などの内容に取り組みました。	小・中学校 100%
外国人英語講師(ALT)・国際教育	小学校では英語活動の時間に外国の子どもたちとの交流活動、ネイティブスピーカーなどとのふれあいを通じて、「国際理解に関する学習の一環」「外国語に触れる」「体験的な学習」として取り組みました。中学校では英語の授業において、外国人英語講師によるコミュニケーション能力の育成に努めました。	小・中学校 100%
校内での研修 (再掲:目標2-1)	教育課程や今日的課題について、研究・研修担当が中心になって研修計画を作成し、組織的に校内研修の充実に努めました。また、教育課題指定研究や校内研修充実事業などの研究研修事業に取り組みました。	小・中学校 100%
読書活動の取組 (再掲:目標2-1)	朝の時間等を活用して読書活動に取り組みました。また、読書活動推進のため「学校図書館専門員」や「読書活動推進員」による児童生徒への読み聞かせやブックトーク、図書紹介、図書室での事務や整理が行われました。	小・中学校 100%
特色ある学校づくりの推進	児童生徒、保護者、地域住民にとって魅力ある学校となるよう、特色ある学校づくりのための取組を進めました。	小・中学校 100%
教員の指導力向上	教員の指導力を高めるために、外部講師や指導主事を招請するなどして校内研究や研修に努めました。	小・中学校 100%
学習(教育)相談 (再掲:目標2-1)	長期休業中、定期テスト前、放課後等に児童生徒の学習(教育)相談を受け、個々に指導・支援を行いました。	小・中学校 92%

〔小・中学校の特長ある取組〕

児童生徒の習熟状況や学習課題をもとに、複数の学習集団に分けて授業を行いました。このことにより、子どもの実態や指導の場面に応じて、「個に応じた指導」がより可能となり、基礎・基本の定着と児童生徒の興味・関心等に応じた発展的・補充的な学習ができました。(再掲)
学区の中学校の英語教師による英語活動を実施しました。
卒業生を招き、中学校時代の思い出や学習への取り組み、進路への心構え等話してもらい、進路指導に役立てました。
総合的な学習の時間、道徳、各教科にキャリア発達の視点を加え、講演会や職場体験などキャリア教育を行いました。
休み時間、図書室での保護者による読み聞かせを行いました。
保護者や卒業生から職業についての話をしてもらい、キャリア教育に役立てました。
長期休業中(夏休み等)における教科相談を実施しました。

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

- ・少人数指導等において個に応じた指導を行うことにより、学習の成果を上げることができました。
- ・自ら課題をみつけ、自ら考え、問題を解決しようとする姿勢が認められるようになりました。

○平成24年度の取組を通して課題と考えられること

- ・自己表現力、コミュニケーション能力の育成とともにさらなる基礎学力の定着を図ることに課題があります。

〔市や関係機関における取組〕

授業づくり研修会	児童生徒の学力の向上につながるよう、教員の指導力を高め、魅力ある授業づくりをするための研修会を小・中学校教職員、幼稚園教諭及び保育園保育士を対象に実施しました。学校に講師を派遣し、模範授業を行い、授業参観後に指導助言を受けるなど、実践的な場面での授業改善や工夫に活かしていくことをねらいとしました。全13回開催し、383名の参加がありました。
新採用教員研修会	新採用教員に対して、1年間の研修を実施しました。学習指導や学級経営に必要な基礎的・基本的な知識や技能を習得し、組織の一員としての意識を高めることをねらいとしました。
経験者研修会	新規採用後1・2年を経過した教員に、1年目、2年目の成果等を確認し、学習指導、児童・生徒理解等の実践的指導力の向上を図ることをねらいとしました。
日本語指導等協力者派遣	日本語の理解や学校生活に十分に適応できていない帰国児童生徒、外国籍児童生徒などに対し、日本語指導等や学校生活適応への支援を図りました。 協力者5名 4校(対象児童生徒5名)へ派遣 派遣日数延べ111日
外国人英語講師(ALT)の派遣	中学校の英語教育や小学校の英語活動においてコミュニケーション態度と能力の育成を図り、異文化理解・国際理解を深めるため外国人を指導助手として小・中学校へ派遣しました。 外国人英語講師(ALT)5名 1名当たり年176日派遣
学校訪問	教育委員会の指導主事が各学校を訪問し、教育方針・学校経営等について把握し、授業参観と教員との懇談により学校との意思疎通を図り、授業づくり・研究研修の充実を図りました。(H23・H24の2カ年で全校を訪問) 計画訪問14校(その他に要請訪問も実施)
図書館員学校訪問サービス	図書館員が小学校等を訪問し、子どもたちに直接ブックトーク(本の紹介)やおはなし会等を実施するサービスで、学校からの依頼により訪問しました。平成24年度は21回実施し、879名の参加がありました。
学習パック・子ども読書パック	小・中学校を対象に、調べ学習に役立つ資料をテーマごとにセットした「学習パック」、絵本、読み物を中心に対象学年の本をセットした「子ども読書パック」を貸出搬送しました。平成24年度は、学習パックは小学校34回、中学校6回、子ども読書パックは小学校21回の利用がありました。
コンピュータ研修会	情報活用能力を育成する授業づくりを目的に、小・中学校の教職員を対象に4回の研修会を開催し、77名の参加がありました。



外国人英語講師(ALT)

目標 2-3

子どもたちがさまざまな体験を通じた学習をすることにより、自ら考える力と行動する力を身につけさせます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

総合的な学習の時間 (再掲:目標2-2)	自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てるなどをねらいとして、授業を進めました。児童生徒や地域の実態に応じて、環境教育、福祉教育、情報教育、国際教育、職場体験などの内容に取り組みました。	小・中学校 100%
環境教育の推進	身近な自然環境や生活環境に興味を持ち、環境保全に対する認識を深めたり、行動力等を身に付けるため、生きる力の育成に視点を置きながら、地球環境の問題や、リサイクル、ごみ問題などをテーマにして、各教科、総合的な学習の時間、学級活動などで環境教育を推進しました。	小・中学校 100%
職場体験活動	望ましい勤労観、職業観の育成をねらいとして、生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする体験活動を実施しました。	中学校のみ 100%

〔小・中学校の特長ある取組〕

中学校2年生のキャンプで牧場での学びの体験として酪農教育ファーム活動を取り入れ、食や命について学びました。

(★)職場体験学習の活動内容の発表会を、保護者と受け入れ事業所の方を招いて行いました。

〔成果・課題〕

○平成24年度を取組を通して成果と考えられること

・総合的な学習の時間に、鎌倉の震災の歴史学習を通し、災害に対する地域の人々の思い・防災への姿勢を知ることによって、児童生徒自らが個々の防災意識を高めました。

〔市や関係機関における取組〕

出前講話“平和”	希望する小・中学校を対象に、戦争体験者や国際協力活動家などを派遣し、その体験談などを聴かせる出前の講演会を実施し、平和や国際協力について考えるきっかけとしました。 市内小中学校 11校延べ12回
青少年セミナー	子どもの体験学習として「子ども陶芸ひろば」「子ども囲碁教室」「金環日食観測キット製作」等を実施し、延べ690名が参加しました。
としょかんいんになってみよう「一日図書館員」	小学1年生から6年生を対象として図書館に親しみながら利用のしかたを知ってもらうことを目的に体験学習を行いました。平成24年度は各図書館で夏休みに全16回実施し、107名の参加がありました。
福祉教育セミナー	市社会福祉協議会が、市内の保育園、小学校、中学校、高等学校の教員、福祉関係者などを対象として、視覚障害と向き合いながら様々なことに挑戦している立木早絵さんの講演会「さらなる一歩を踏み出そう～夢をみる力～」と題した講演会を開催し、150名の参加がありました。

目標 2-4

子どもたちが鎌倉の自然、歴史、芸術、文化などの学習を通して、郷土を愛する心を培い、国際的な視野を広げる取り組みを進めます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

総合的な学習の時間 (再掲:目標2-2)	自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとして、授業を進めました。児童生徒や地域の実態に応じて、環境教育、福祉教育、情報教育、国際教育、職場体験などの内容に取り組みました。	小・中学校 100%
環境教育の推進 (再掲:目標2-3)	身近な自然環境や生活環境に興味を持ち、環境保全に対する認識を深めたり、行動力等を身に付けるため、生きる力の育成に視点を置きながら、地球環境の問題や、リサイクル、ごみ問題などをテーマにして、各教科、総合的な学習の時間、学級活動などで環境教育を推進しました。	小・中学校 100%
郷土学習・地域学習	教育センター発行の「かまくら」、「私たちの鎌倉」、「鎌倉の自然」、「かまくら子ども風土記」などを活用し、各教科や総合的な学習の時間などで鎌倉市における地理、社会事象、歴史・文化等の学習を行いました。	小・中学校 100%
『かまくらのはなし』を活用した道徳の授業	教育センター発行の『かまくらのはなし』を道徳の時間等に活用し、地域の教材を生かした授業を行いました。	小・中学校 80%
外国人英語講師(ALT)・国際教育	外国人英語講師(ALT)との授業により、小学校での英語活動及び中学校での英語の授業で、コミュニケーション能力の素地を養ったり、育成を図ったりしました。また、「国際理解」の視点での学習指導を行いました。	小・中学校 100%
地域行事への参加	地域のおまつりなどの行事に参加して、地域の歴史・文化にふれる機会を持ちました。	小・中学校 92%

〔小・中学校の特長ある取組〕

伝統的産業である鎌倉彫の学習を深め、鎌倉の歴史や風土への理解を深めました。
風致保存会の協力による下草刈りの活動などを行いました。
地域学習でグループ活動を行う際、保護者の支援を活用して、安全面に配慮する取組を行いました。
(★)国際理解教育として、外部講師を招き「貿易ゲーム」を行い、経済格差など世界の現状について学びました。

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

- ・住職等に協力していただき、歴史学習を深めることができました。
- ・ALTや英語活動サポーターとの英語活動を通して、外国文化について興味関心を深めました。
- ・地域行事に参加することにより、子どもたちは地域の一人としての自覚が芽生えました。
- ・能舞台見学は、伝統文化を体験できる良い学習の場となりました。

〔市や関係機関における取組〕

鎌倉郷土研究研修会	小・中学校教職員、幼稚園教諭及び保育園保育士を対象に鎌倉の歴史遺産の普遍的な価値や独自性、世界遺産登録に向けての取組の様子について見識者に話を伺う研修会を行いました。3回の開催で、82名の参加がありました。
-----------	---

基本方針3	子どもたちに社会性・道徳性を身につけさせ、共に生きる心をはぐくみます
-------	------------------------------------

目 標 3-1	子どもたちが日々の活動や地域の人々とのふれあいを通して、感謝する心や思いやりの心、譲り合いの心をはぐくみ、社会性や道徳性を高めるよう指導します。
---------	--

〔小・中学校における主な取組〕		24年度 取組率
道徳教育	発達の段階に応じて、生命を尊重する心、社会生活上のきまりを守ったり、互いに協力し助け合い支え合ったりする心、感謝する心や思いやりの心の育成などを教育活動全般で組織的・計画的に行いました。	小・中学校 100%
PTA・保護者会や地域の人々と協力した取組	総合的な学習の時間を中心に、外部講師として保護者や地域の人々に協力を得ました。	小・中学校 96%
高齢者との交流	高齢者とのふれあいを通じての豊かな心の育成に取り組みました。	小・中学校 84%
乳幼児とのふれあい活動	福祉教育や幼児教育の目的で、幼稚園や保育園での乳幼児とのふれあいを通じて、発達や成長の仕組み、他者へのやさしさや思いやりなどを身に付け、次代の保護者としての豊かな人間性を育むよう取り組みました。	小・中学校 84%
ボランティア活動	総合的な学習の時間において地域清掃や下草刈り、施設訪問等を行いました。また、支援活動等として街頭キャンペーン、赤い羽根募金、緑の羽根募金や災害等支援活動などを行いました。	小・中学校 76%

〔小・中学校の特長ある取組〕
児童会を中心に、ペットボトルのふたを集め、ポリオワクチンを世界の子どもたちに届けようという運動に参加しました。



〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

・学習活動に地域への聞き取り調査、地域の方を外部講師として話を伺うなどの取組を実施することで、学校への理解・協力を得やすくなりました。

〔市や関係機関における取組〕

<p>街頭指導事業</p>	<p>子どもたちの健全な育成と非行防止のために、児童生徒の下校時間帯の街頭指導やキャンペーン、各調査などを実施しました。</p> <p>街頭指導 12回実施 青少年健全育成推進街頭キャンペーン 2回実施 社会環境実態調査 1回実施</p>
<p>関係機関との連携 「学校・警察連絡協議会（学警連）」</p>	<p>児童生徒の非行化防止、健全育成をはかる警察と連携した「学校・警察連絡協議会（学警連）」を組織しています。</p> <p>鎌倉署管内学警連 役員会1回 協議会2回実施 大船署管内学警連 役員会1回 協議会2回実施 鎌倉市学警連全体協議会1回実施</p>
<p>男女平等教育</p>	<p>「かまくら21男女共同参画プラン」に基づき男女平等意識と人権尊重の意識を深めました。</p>
<p>人権教育</p>	<p>教育センターと文化人権推進課との共催による人権教育研修会を開催しました。小・中学校の教職員23名が参加し、人権尊重についての認識を深めました。また、文化人権推進課と教育総務課との共催によるPTA連絡協議会役員研修会全体会・人権講演会を開催し、198名が参加して人権尊重の認識を深めました。</p>
<p>中学生人権作文コンテスト</p>	<p>鎌倉市人権擁護委員会では、市内の公立・私立中学生に人権に関する作文を募集し、中学生が作文を書くことを通じて人権尊重の重要性について理解を深め、豊かな人権感覚を身につけてもらうことを目的に中学生人権作文コンテストを実施しています。平成24年度は、11校から567作品の応募があり、そのうちの1編が法務大臣賞を受賞し、また1編が神奈川県大会銀賞を受賞しました。</p>

目標 3-2

学校は家庭や関係機関との連携をいっそう深め、子どもの心の問題の解決に向けた取り組みを推進します。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

スクールカウンセラー等による相談体制 (再掲:目標1-1)	児童生徒及びその保護者に、心のふれあい相談員、スクールカウンセラー等の配置を周知し、相談体制づくりに努めました。	小・中学校 100%
教育相談 (再掲:目標1-1)	児童生徒一人ひとりもっている人間関係や精神的な問題、学習・生活などの教育上の問題について、本人又はその保護者などからの相談を受け、望ましいあり方について指導・助言を行いました。	小・中学校 100%
授業参観と学級懇談会 (再掲:目標1-3)	授業公開とともに、保護者と担任との話し合いや情報発信・共有をしました。	小・中学校 100%
家庭訪問・地域訪問 (再掲:目標1-3)	担任が児童生徒の家庭や地域を訪問して、家庭での様子や学校での様子について保護者と話し合いや情報共有を行いました。	小・中学校 100%
学区内自治会、民生委員、青少年育成団体等との懇談・交流 (再掲:目標1-2)	学区内自治会長等、PTA役員、校外委員、民生委員、児童委員等と地区や児童生徒の現状と課題等についての懇談、自治会長と児童の給食交流、避難所施設の確認等を行った。	小・中学校 88%
学校区での教育懇談(話)会の開催 (再掲:目標1-3)	学校区での教育懇談(話)会を開催し、小・中教職員代表、PTA役員、自治会長、民生委員、青少年指導員等が地域での様子、地域と学校のあり方等を話し合いました。(教育講演会や懇談会等も含む)	小・中学校 80%

〔小・中学校の特長ある取組〕

PTAと協力し携帯電話等の取扱いに関する学習会を行いました。
支援を必要とする児童生徒の適切な対応と指導のため特別支援教育巡回相談員の派遣を要請し、支援のための助言を活かしました。
(★)スクールカウンセラーによる人間関係づくり活動を中学1年生対象に実施しました。

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

- ・教育相談コーディネーターを中心に教育相談体制が整い、子どもたちのもつ課題に対して迅速に対応できました。
- ・教育懇話会や青少年育成懇話会などで、地域の様々な方とのよりよい情報交換ができました。
- ・人間関係づくり活動後、生徒の他者への理解が深まりました。

○平成24年度の取組を通して課題と考えられること

- ・中学入学時の新しい環境における人間関係づくりに対する体制づくりが課題です。

〔市や関係機関における取組〕

いじめや不登校をなくす取組	<p>教育センター相談室において、いじめ・不登校等の相談を行いました。相談室での相談業務の他に、メンタルフレンドの派遣、小学校への心のふれあい相談員の配置、スクールカウンセラー(県)事業、スクールソーシャルワーカー(県・市)事業を活用し、児童生徒を支援しました。</p> <p>また、不登校児童生徒が通う教育支援教室「ひだまり」において、小集団での人間関係づくりや学習支援に取り組み、児童生徒の生活を支援しました。</p> <p>さらに、児童生徒の人間関係づくりが、いじめ等の防止にも役立つことを考え、教職員向けに人間関係づくりの研修会を開催したり、調査研究会で人間関係づくりの手法について研究したりする取組も行いました。</p> <p>教育センター相談室 新規相談件数187件 教育相談員の配置 教育センター相談室5名 教育支援員の配置 教育支援教室「ひだまり」4名 メンタルフレンド登録8名 30回活動</p>
---------------	---

目標 3-3

障害のある人もない人も共に学び育つことを喜び合える環境づくりを進め、共に生きる社会の大切さを理解させます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

支援体制の推進	スクールアシスタント、学級支援員、スクールソーシャルワーカー、巡回指導員など配置・派遣により、教育的ニーズのある児童生徒への支援体制づくりに努めました。	小・中学校 100%
交流活動の実施	生活科や総合的な学習の時間、給食の時間等に、福祉施設への訪問、特別支援学校との連携、交流給食などを実施し、共に生きるという視点での活動、学習を実施しました。	小・中学校 88%
特別支援教育の理解を深める校内研修の実施	特別支援教育の理解を深めるため、巡回指導員の訪問や校内研修会を実施しました。	小・中学校 96%
障害のある子どもたちへの教育	特別支援学級や通級指導教室において、一人ひとりの子どものニーズに応じた適切な教育をきめ細かく行いました。また、障害のある児童生徒と通常学級の児童生徒との交流活動を行いました。	小・中学校 特学設置校のみ 100%

〔小・中学校の特長ある取組〕

地域の高齢者や身体に障害のある方を学校行事に招待し、ふれあいの機会をもち、共に生きることの大切さを学びました。
障害のある方から話を聞いたり、障害の擬似体験や施設での福祉体験学習を通して、共に生きる心を育む機会としました。
支援を必要とする児童生徒の適切な対応と指導のため特別支援教育巡回相談員の派遣を要請し、支援のための助言を活かしました。(再掲)

〔成果・課題〕

○平成24年度を取組を通して成果と考えられること

- ・児童が特別支援学校の児童と交流することにより、共生についての理解が深まりました。
- ・巡回相談、ケース会議等の実施により、児童理解を深め指導に生かすことができました。

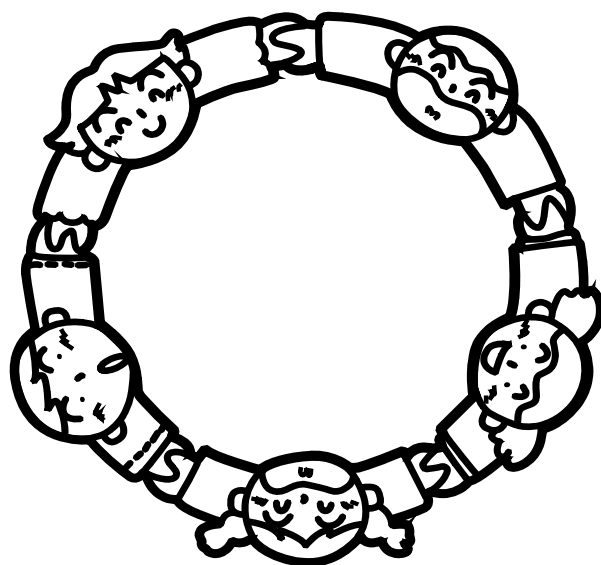
○平成24年度を取組を通して課題と考えられること

- ・特別支援教育に関する校内研修を設定し、さらなる理解を深める必要があります。

〔市や関係機関における取組〕

人権教育(再掲)	教育センターと文化人権推進課との共催による人権教育研修会を開催しました。小・中学校の教職員23名が参加し、人権尊重についての認識を深めました。また、文化人権推進課と教育総務課との共催によるPTA連絡協議会役員研修会全体会・人権講演会を開催し、198名が参加して人権尊重の認識を深めました。
福祉教育セミナー(再掲)	市社会福祉協議会が、市内の保育園、小学校、中学校、高等学校の教員、福祉関係者などを対象として、視覚障害と向き合いながら様々なことに挑戦している立木早絵さんの講演会「さらなる一歩を踏み出そう～夢をみる力～」と題した講演会を開催し、150名の参加がありました。
児童生徒理解研修会	さまざまな児童や生徒に対する理解と支援の仕方について小・中学校教職員を対象に研修会を行いました。「特別な配慮が必要な子どもについて」「スクールカウンセリングの意義と効果」等の内容で8回開催し、294名の参加がありました。

<p>特別支援学級補助員の配置</p>	<p>特別支援学級在籍の児童生徒の移動・生活等の介助を行うため特別支援学級設置校へ配置しました。</p> <p>特別支援学級補助員 小・中学校2校へ2名配置</p>
<p>学級介助員の配置</p>	<p>通常学級及び特別支援学級に在籍している配慮の必要な児童生徒に対し学級介助員を配置し、生活面・安全面での援助を行いました。</p> <p>学級介助員 小・中学校10校(うち特別支援学級設置校8校)へ26名配置</p>
<p>特別支援教育巡回相談員の派遣</p>	<p>心理面や発達障害の専門家である臨床心理士3名を学校に派遣し、特別な支援を必要とする児童生徒の実態把握及び適切な支援について助言を行うとともに校内支援体制の整備に関して支援を行いました。</p> <p>派遣回数(延べ回数) 学校訪問54校(182学級・647名)</p>
<p>学級支援員の派遣</p>	<p>通常学級及び特別支援学級に在籍している配慮の必要な児童生徒に対し支援員(時間単位)を派遣し、学校生活における支援を行いました。</p> <p>学級支援員 小学校16校・中学校7校へ延べ9,290時間派遣</p>
<p>スクールアシスタント</p>	<p>通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童に対して教育的支援(担任と連携し、教材教具の工夫や学習指導等)を行いました。</p> <p>スクールアシスタント 小学校9校へ9名配置</p>



目標 3-4

子どもたちの豊かな成長のために、家庭、幼稚園・保育所、学校などが連携し協調して、連続性のある取り組みを進めます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

小中連携の推進	小・中交流として、学区の小・中学校の先生で連絡会を開き子どもの情報交換をしました。また、中学校行事(収穫祭、体育祭)に小学生が参加したり、中学校の先生が小学校で出前授業を行うなど小中連携の取組を行いました。	小・中学校 96%
乳幼児とのふれあい活動 (再掲:目標3-1)	福祉教育や幼児教育の目的で、幼稚園や保育園での乳幼児とのふれあいを通じて、発達や成長の仕組み、他者へのやさしさや思いやりなどを身に付け、次代の保護者としての豊かな人間性を育むよう取り組みました。	小・中学校 84%
運動会、体育祭・文化祭における未就学児、小学生参加種目・内容	運動会、体育祭・文化祭などの種目等に、地域在住の幼児や小学生が参加できる場を設定し、学校理解の一環としました。	小・中学校 88%
幼稚園・保育園との連携	新1年生の入学時に、支援を要する子どもの様子や生活環境について幼稚園・保育園と話し合いを実施して指導に活用しました。	小学校のみ 100%
小学校6年生の中学校体験入学	6年生が中学校へ行き、授業の様子を見たり部活動の体験をしたりしました。また、6年生が授業で中学校の先生や中学生の指導を受けました。	小学校のみ 100%
幼稚園児・保育園児の招待・学校紹介	幼稚園や保育園の園児を小学校に招待して学校案内をしたり、学校生活を紹介したりしました。	小学校のみ 94%

〔小・中学校の特長ある取組〕

小学校と中学校の交流活動を年間計画に位置づけ、9年間を見通した教育が進められるよう、小・中連携の取組を充実させました。
6年生が隣接校と年間を通した行事交流を実施し、小学校間の交流を深めました。
(★)子どもたちの中学校進学不安を軽減させるため、3学期に校区の中学1年生に「アンケート」をお願いし、それを教材に授業を行いました。
(★)卒業生(中2)が職場体験学習に「小学校の教員」を希望し、小学校で実習をしました。教師の仕事だけでなく、技能員・栄養士・養護教諭としての実習も行いました。

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

- ・さまざまな小中連携事業を通し、小中の理解が深まりました。
- ・学区の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校と交流活動を行うことによって、異年齢間の理解を深め、共生の心を育てることができました。

○平成24年度の取組を通して課題と考えられること

- ・幼稚園との交流は、小学校入学前の3学期がふさわしいですが、天候・流感等で実施が左右されるため、時期等の検討が必要です。

〔市や関係機関における取組〕

幼・保・小の連携を促進する研究会等	幼稚園・小学校の教員と保育園の保育士で構成される研究会等を開催し、幼児教育に関する今日的課題の研究を推進するとともに、保育参観や授業参観・研修会を実施し、実態や諸課題について情報交換や研究協議を行いました。
小中一貫教育検討委員会 (再掲)	鎌倉市教育課程編成の指針作成委員会により、「鎌倉市教育課程編成の指針」の一部となる、指導計画例(案)を作成しました。

基本方針4	子どもたちの心と体を健やかに成長させ、豊かな感性を養います
-------	-------------------------------

目 標 4-1	家庭と連携して子どもたちに正しい生活リズムと生活習慣を身につけさせ、心身の健康の増進を図ります。
---------	--

〔小・中学校における主な取組〕		24年度 取組率
保健だよりの発行	保健だよりを発行し、児童生徒の様子を保護者に知らせ、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さについて考える機会としました。	小・中学校 100%
健康調査の実施	宿泊行事の前に、家庭に協力を求め健康調査を実施し、行事における健康管理に役立てました。	小・中学校 100%
身体計測週間の設定	定期健康診断時の他、身長と体重を測定する計測週間を設定し、子ども達が自己の健全な成長について考えることができるよう努めました。	小・中学校 88%
保健(健康)教育講演会	児童生徒や保護者を対象として、保健(健康)教育の一環として、「タバコの害」「アルコールの害」「生命の大切さ」「薬物乱用防止」についての講演会等を開催しました。	小・中学校 68%
給食だよりの発行	小学校では、学校給食の内容を紹介したり、児童の給食での様子から、家庭での食生活の見直しを図るなど、食生活に関する情報を発信しました。	小学校のみ 100%
食物アレルギーへの対応	食物アレルギーのある子どもの給食には、除去食で対応しました。調理過程で除去が可能なものを除去するとともに、給食の献立に工夫を凝らして対応しました。また、アレルギーのある児童の周知を全教職員へ行いました。	小学校のみ 100%
歯科保健指導	小学校で、歯の模型・紙芝居などを使用して、年齢にあわせた歯科保健指導を実施しました。	小学校のみ 100%

〔小・中学校の特長ある取組〕
保健所の医師や警察等から、薬物についての指導を受け、理解を深めました。
放送委員会児童による放送で、うがい、手洗い、水分補給等についての呼びかけを行い、健康の保持増進に努めるよう働きかけを行いました。

〔成果・課題〕
○平成24年度の取組を通して成果と考えられること
<ul style="list-style-type: none"> ・保健だより・給食だよりの内容の充実により、児童・保護者の生活習慣・心身の健康についての関心が高まりました。 ・エピペン注射を含め、アナフィラキシーについての研修会を通して、その理解を職員間で深めました。 ・対象者に対して行っている「アレルギー面談」が定着しました。

〔市や関係機関における取組〕	
学校保健大会の開催	学校保健への意識を高めるとともに、児童生徒の心身の健全な発達をめざし、教職員・学校医・学校歯科医・学校薬剤師・保護者等を対象に学校保健大会を学校保健会とともに1回開催し、「東日本大震災における石巻市での支援状況と子どもの心に及ぼす影響」というテーマで講演を行いました。

目標 4-2

子どもたちに体を動かすことの大切さを認識させ、運動能力や体力の向上に向けた取り組みを進めます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会の実施	多くの運動種目を通して、体を動かすことの喜びや体力の向上に取り組みました。	小・中学校 100%
日常的な体力向上の取組	日常的な体力向上の取組として、児童会や生徒会、体育委員会等が外遊びやスポーツを通して体を動かすよう呼びかけました。	小・中学校 96%
体力向上への取組「運動部活動」	中学校では、部活動に全校で力を入れ、各種大会が実施されました。	中学校のみ 100%
中学校体育連盟(中体連)	運動競技の発展を図り、保健体育全般にわたる研究をし、体育文化の向上を目的に活動しました。市立9校、国立1校、私立6校が加盟しています。競技部(専門部)には、12の種目別の専門部があり、総合体育大会などの各種競技会の企画・運営を行いました。研究部会は保健体育の調査研究や研究発表・講習会などを行いました。	中学校のみ 100%
スポーツテスト	国や県で実施するスポーツテスト(抽出等)を行い、児童生徒の体力の実態把握を行いました。	実施校のみ 44%

〔小・中学校の特長ある取組〕

全校の児童が、学年、学級の枠を超えて一緒に地域を歩くことにより異学年の交流を図りながら郷土を愛する心を育みました。
陸上記録大会に向けた練習に、中学校陸上部生徒との交流を設定し、意欲を高める取組を進めました。
児童会、生徒会の行事として、球技大会や縄跳び大会などの体育的行事を実施し、運動能力や体力向上に向けた取組を進めました。

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

・様々な活動の中で、身体を動かす心地よさ、グループ・クラスなどのまとまりを感じることができました。

○平成24年度の取組を通して課題と考えられること

・体力や運動能力の向上に向け、丁寧に取り組んでいく必要があります。

〔市や関係機関における取組〕

児童生徒対象の各種スポーツ教室等の開催	子どもたちが充実した毎日を過ごせるよう、スポーツを通じた「健康なからだづくり」と、スポーツによってルールを守ることの大切さやフェアプレーの精神を学ぶ「健全な心づくり」を進めており、平成24年度に実施した小・中学生を主に対象としたスポーツ事業は、「子どもの体操教室」「チャレンジスポーツ」「巡回楽しくスイミング」「材木座海岸・中央公園子ども教室」「マリンスポーツ」など12事業で、延べ1,442人の参加がありました。
---------------------	---

目標 4-3

家庭と連携して「食育」に取り組み、子どもたちの健康の基盤づくりを進めます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

食育	小学校では、食育として栄養職員と教員が連携し、低学年の「嫌いなものでも少しずつ食べよう」から始まり、「食事の大切さ」「食品の栄養」「栄養素の働き」など体にかかわることがらや、「食品の名前がわかる」「食品の旬」「地場産の食材」「学校菜園での栽培」「豆腐づくり」等生産や加工流通にかかわることがらなどを関連教科を中心に実施しました。中学校では、食育として関連教科を中心に全体で取り組みました。	小・中学校 100%
保健だよりの発行 (再掲:目標4-1)	保健だよりを発行し、児童生徒の様子を保護者に知らせ、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さについて考える機会としました。	小・中学校 100%
生活科・総合的な学習の 時間等における食育	生活科・総合的な学習の時間等で、食と環境、食と健康、食とマナー等総合的に食育について学習しました。	小・中学校 84%
保護者への呼びかけ	学級懇談会等で「早寝・早起き・朝ごはん」を理解・協力を呼びかけ、家庭とともに食育に取り組みました。	小・中学校 100%
給食だよりの発行 (再掲:目標4-1)	小学校では、学校給食の内容を紹介したり、児童の給食での様子から、家庭での食生活の見直しを図るなど、食生活に関する情報を発信しました。	小学校のみ 100%
給食試食会	一年生、転入生の保護者を対象に給食試食会を実施して、学校給食の目的や献立作りの方法などの内容を理解していただくとともに、保護者との意見交流を図りました。	小学校のみ 100%
米作り体験学習	社会科の授業「日本の農業」の単元で我国の主食である米について学習し、総合的な学習の時間で米作りを体験することにより、食に対する理解を深めました。	小学校のみ 94%
ランチルームの活用	多くの小学校では、教室とは違う、食事をするのにふさわしい場としてのランチルームで給食時間を過ごす機会を設けました。ランチルームは、子どもたちが食を通じて他のクラス児童や担任以外の教職員と交流を図る場として活用され、さらに、栄養職員が食育を行う場としても活用しました。	小学校 設置校のみ 93%
栽培野菜の実食	各学年が教材園で野菜を育て、食材について知識を深めるとともに収穫した野菜を学年で調理したり、全校給食に利用しました。	小学校のみ 88%
成長期の栄養の摂取の大切さについての保護者への説明	小学校6年生の保護者を対象に開催する学校説明会等で、昼食の弁当についてふれ、成長期の栄養摂取の大切さについて理解と協力を得るよう努めました。	中学校のみ 89%



学校給食の様子

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して成果と考えられること

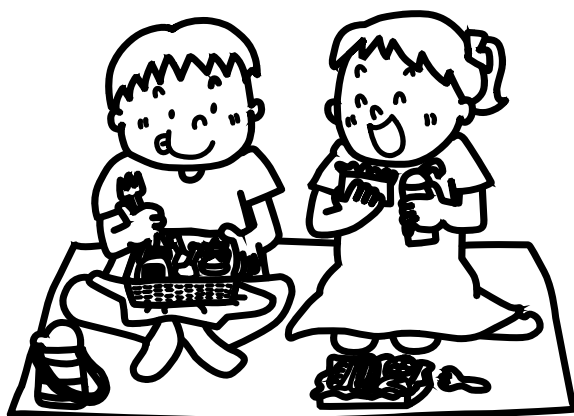
・給食試食会で、栄養教諭が直接食の大切さを伝え、給食の目的等について保護者の理解を深めることができました。

○平成24年度の取組を通して課題と考えられること

・学校園での栽培活動において調理の実施は、さらなる計画的、組織的な取組が必要です。

〔市や関係機関における取組〕

<p>食育・農業体験研修会</p>	<p>食に関する指導の充実に資するように、小・中学校教職員、幼稚園教諭及び保育園保育士を対象に研修会を行いました。「エコ・クッキング」「鎌倉の漁業体験」という内容で2回開催し、40名の参加がありました。</p>
<p>給食展 (パネル展・料理講習会・講演会)</p>	<p>学校給食の持つ意義と役割等について、市民に理解を深めてもらうために、鎌倉駅地下道「ギャラリー50」で児童の作品、学校給食の歴史及び年代別献立等のパネル展示を行いました。 また、児童及び保護者自らが、学校給食で実施している献立を調理することで、学校給食への理解を深め、食に対する関心を高め、調理の楽しさを知ってもらうために料理講習会を2日開催しました。 さらに、広く一般市民の方を対象に講演会を開催し、食に対する関心を高め、同時に地場産物を利用した学校給食の献立による試食会を開催し、学校給食に対する理解を深めてもらいました。</p>



目標 4-4

子どもたちが芸術活動や文化活動を通して、豊かな心をはぐくむことができるよう取り組みを進めます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

小学校音楽会・ 中学校音楽会	小学校及び中学校における音楽活動の発表の場を設け、日常の活動を奨励するとともに、学校間の交流を図りました。	小・中学校 100%
児童作品展	市内の国公立全小学校(17校)の全学年の書写と図工の作品を鎌倉芸術館ギャラリーで展示しました。そして、鑑賞を通して自校だけでなく、他校との交流を図りました。	小学校のみ 100%
文化的行事	1年生を迎える会、6年生を送る会、市音楽会、4年生校内発表会、音楽クラブコンサート等学年・合同合奏や劇など発表しあい、鑑賞しあうことによって、表現力や感性を高める活動を展開しました。	小学校のみ 100%
小学校芸術鑑賞会	小学生が専門家による演劇や音楽など芸術鑑賞を通じて本物にふれ芸術に対する関心を高めると共に、豊かな人間性を育む取組として芸術鑑賞会を実施しました。	小学校のみ 88%
舞踏発表	よさこいソーラン節やエイサーをはじめとした舞踊を、校外外で発表しました。	小学校のみ 88%
学年ごとの合唱・合奏 発表会	学年ごとに合唱や合奏を行い、お互いに鑑賞合いました。	小学校のみ 100%
夏休み作品展	子どもたちが夏休みに製作した絵画、作文、レポート、自由作品等を展示し、児童相互の鑑賞、評価を通し、表現力の向上に努めました。	小学校のみ 100%
中学校生徒美術展	生徒が美術部や美術の授業で行った創造的な造形活動の成果を展示し、文化活動の向上を目指して開催しました。	中学校のみ 100%
中学校連合文化祭	中学校文化連盟連合文化祭を開催し、市内の国・公立中学校の文化部所属生徒が、各種文化芸術活動を通じて、鎌倉市の中学生同士としてふれあい結束し、文化芸術活動への意欲・技術の向上を図りました。	中学校のみ 100%
合唱発表会	合唱の発表に向けて、全校で合唱に取り組むことにより、コーラスの楽しさや協力して創り上げることの喜びを味わいました。	中学校のみ 89%

〔小・中学校の特長ある取組〕

演劇や音楽など芸術鑑賞会として、本物の芸術に触れ芸術に対する関心を高め、豊かな心を育む取組を行いました。

鎌倉駅地下道「ギャラリー50」で児童生徒の絵画・工作・研究物等を展示することにより学校教育の成果の一端を市民に公開しました。

〔成果・課題〕

○平成24年度の取組を通して課題と考えられること

・芸術鑑賞は、子どもたちの感性を育む点で有用ですが、家庭での費用負担に課題があります。

〔市や関係機関における取組〕

<p>放課後子ども教室 推進事業</p>	<p>稲村ヶ崎小学校といなむらがさき子どもの家「いなほ」に通う全児童を対象に、放課後や週末の安全で安心な子どもの居場所づくりを目指す事業で、稲村ヶ崎小学校の特別教室と校庭等を使用して、文化的・体育的な活動を実施しました。</p> <p>8教室 平日42日・土日等23日 参加人数 延べ1,155名</p>
<p>夏休み写生大会</p>	<p>市内在住・在学の小・中学生及び幼児の夏休み中における情操教育の一環として、子どもたちに美術創作の機会を与え、その作品を展示し、文化活動の振興を図ることを目的として開催しています。市内の名所・旧跡を会場にしているため、鎌倉の再発見にもなっています。</p> <p>会 場 円覚寺 参加者 271名</p>
<p>子どものための ウィンターコンサート かまくら こどもコンサート</p>	<p>子どもたちに、吹奏楽・交響楽鑑賞の機会を与え、音楽を通じて情操教育を図るとともに、市民交響楽団及びアマチュアバンドを育成し、市民による文化活動の一層の普及を図る事業として、例年、12月と3月に開催しています。</p> <p>子どものためのウィンターコンサート 参加者274名(子ども145名) かまくらこどもコンサート 参加者97名 入場者557名(子ども189名)</p>
<p>ようこそ先達事業</p>	<p>文化芸術など多くの人材に恵まれた本市の特性を活かし、小中学校に講演や演奏を通して感動を届ける事業を実施しました。</p> <p>市内小中学校2校 小坂小学校(詩人) 第二中学校(室内管弦楽団)</p>
<p>(★) 第二次鎌倉市子ども読書 活動推進計画の策定</p>	<p>本と人との輪づくりをキャッチフレーズに子どもの読書環境整備のための計画を平成25年2月に策定しました。平成25年度から29年度までの5カ年計画で、0歳から18歳までの子どもたちとその保護者、子どもの読書活動推進に関わるボランティア・教職員・行政の関係者を対象とした計画です。</p>



夏休み写生大会と作品の展示の様子

基本方針5

安心して子育てができる環境づくりを進めます

目標 5-1

子育ての楽しさや喜びを感じられるよう、関係機関や子育て支援団体などによる、支援のネットワークを充実します。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

教育相談 (再掲:目標1-1)	児童生徒一人ひとりもっている人間関係や精神的な問題、学習・生活などの教育上の問題について、本人又はその保護者などからの相談を受け、望ましいあり方について指導・助言を行いました。	小・中学校 100%
学校区での教育懇談(話)会の開催 (再掲:目標1-3)	学校区での教育懇談(話)会を開催し、小・中教職員代表、PTA役員、自治会長、民生委員、青少年指導員等が地域での様子、地域と学校のあり方等を話し合いました。(教育講演会や懇談会等も含む)	小・中学校 84%
市の子ども相談窓口、児童相談所や警察との連携	子どもの家庭における様々な状況について、必要に応じて市の教育センター相談室、子ども相談窓口、児童相談所や警察との連携を図りました。	小・中学校 100%
子どもの家との連携	子どもの家と連携し、日常の子どもの様子や集団下校時の対応等について、折りにふれて話し合いや情報交換を実施しました。	小学校のみ 64%

〔小・中学校の特長ある取組〕

地区ごとに保護者が集いPTA(保護者会)地区別懇談会を開催して、子育てなどについての情報交換などを行いました。

スクールソーシャルワーカーとの連携を図りました。

〔成果・課題〕

○平成24年度 of 取組を通して成果と考えられること

・関係機関と連携し教育相談体制の充実を図ることができました。

〔市や関係機関における取組〕

次世代育成の推進	平成22年3月に策定した「鎌倉市次世代育成きらきらプラン後期計画」の推進を図りました。後期計画では、「重点取組み」として「保育環境の充実」「市民ニーズにあった居場所の整備」「安全・安心を感じられる環境づくりの推進」の3つを設定しており、さらなる推進に向けた取組を行いました。
幼稚園・保育園などでの窓口相談	幼稚園では地域開放事業として教育相談事業を行い(一部)、保育園でも育児相談を実施しました。子育て支援センターでは育児情報の提供や育児相談を子育てアドバイザーが行い、さまざまな子育て支援を実践しました。
こどもと家庭の相談室	平成17年度から、こどもと家庭の相談室を開設し、育児不安など子どもと家庭に関する様々な相談に対応しました。また、児童虐待相談については、他機関と連携を取り、必要な支援を行いました。また、イベント会場で子どもと家庭の相談室のパンフレットを配布し、広く市民に相談室の周知を行いました。
保健・福祉関係者などによる相談体制	家庭訪問・乳幼児健康相談・乳幼児健康診査・育児教室などで、保護者と一緒に発育や発達を確認するとともに、子育てに関する相談を受け、育児不安の軽減を図り、育児力の向上を目指しました。また、専門スタッフによる発達相談、母子グループ指導などで、発達に心配のある乳幼児に専門的アドバイス及び適切な対応を図りました。平成24年度の新規相談件数は276件、また、母子グループ指導は、3クール66回実施し、486組の親子の参加がありました。

一時預かり	保護者の病気や出産、リフレッシュなど一時的に子どもを保育できない場合に保育園を利用できる一時預かりを実施しました。(保育料は有料) 〔※実施園及び利用者延人数(平成24年度):腰越保育園1,221人、深沢保育園1,369人、清心保育園185人、こぼとナーサリー1,122人、たんぼぼ共同保育園649人、山崎保育園1,478人〕
保育園地域交流事業	地域の子どもたちと園児との交流、遊び場の提供、育児講座、育児相談なども行いました。 〔※実施園(平成24年度):公立保育園全園、富士愛育園、岩瀬保育園、清心保育園、こぼとナーサリー、たんぼぼ共同保育園、梶原の森たんぼぼ保育園、山崎保育園、大船ひまわり保育園、ピヨピヨ保育園、寺分保育園、保育園アワーキッズ鎌倉、保育園アワーキッズ大船〕
かまくら子育てメディアスポット	市は平成15年度に「かまくら子育てメディアスポット」を本庁舎1階に開設し、子育てサークル、遊び場、保育園・幼稚園情報などの子育て支援情報を積極的に提供しています。また、授乳室や手続きなどの待ち時間に子どもを遊ばせることができる「キッズコーナー」も併設しています。
(★) 子育てひろば (フリースペース運営)	子育て支援センターでは育児情報の提供や育児相談を子育てアドバイザーが行い、さまざまな子育て支援を実施しました。 ・子育てひろば(フリースペース運営) 月～金、月1回土曜日 10:00～15:00 ・電話等での相談 開設日に9:00～16:00 ・鎌倉子育て支援センター 利用者数 9,550人 ・大船子育て支援センター 利用者数 13,826人 ・深沢子育て支援センター 利用者数 5,450人
地域の自主サークル活動	子育て支援グループと子育て中の母親たちのグループ15団体と個人会員11名が集まり、情報交換を行っています。講座の企画や「一日冒険遊び場」を各地域で行いました。
おはなし会	図書館では、4歳から9歳ぐらいの子どもを対象に、絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター等を中心に実施するおはなし会を各館で原則月1回行っています。平成24年度は63回実施し、486名の参加がありました。
子どもの家	子どもの家は、保護者が就労や病気などにより子どもが帰宅しても世話をする人がいない場合に、家庭的な指導を行う施設として設置しており、平成24年度4月1日現在1,014名の児童に対し、その運営に努めました。
青少年指導員	青少年指導員は、青少年の健全な育成を図るため、地域での担い手として活動しています。地域の人と人を結びつけるコーディネーター的な役割を果たしながら、青少年の自発的活動や、育成活動を推進し、地域の青少年団体の活動を盛んにするための援助や青少年育成組織を強化するための支援を行いました。また、世界遺産登録推進担当と共に、中学生対象の作文コンクールを実施し、582名から応募がありました。
主任児童委員の活動	児童の健全育成のために、主任児童委員が中心となり、民生委員児童委員の協力のもと、未就学児を対象に小地域でサロン活動を実施しました。 第一地区…二階堂子育てサロン(年16回) 第二地区…Fly2kids(年44回) 第三地区…ベビーちゃんの会(年20回)・つくしっ子(年11回) 第四地区…子育てひろば“ぼっけ”(年12回) 第五地区・第六地区…深沢キッズネット(年10回) 第七地区…子育てサロン子ぶくろ家(年12回) 第八地区…のびのび子育て(年11回) 第九地区…ママと赤ちゃんのたまりば(年11回) 第十地区…子育てひろば“西鎌倉ぼっけ”(年37回)
発達支援システムネットワーク	障害や特別な配慮を必要とする子どもに対して、保健・福祉・教育などが連携して、継続的な一貫した支援を行いました。平成24年度は34事例についてネットワークで対応しました。
障害児放課後余暇支援事業	障害のある子どもが放課後等の活動を行う場所を提供するほか、家族の一時的介護負担の軽減を図る事業を行っています。「のんびりスペース★大船」と「障害児活動支援センター」の2箇所を実施し、平成24年度は2箇所合計4,436名の利用がありました。
5歳児すこやか相談事業	子どものすこやかな成長を支援するために、市内の公立保育園、民間保育園、幼稚園の計30園の年中年齢の子ども888名を対象に、「5歳児すこやか相談」を実施しました。
発達障害啓発のための講演会等の開催	発達障害等の特別な支援を必要とする子どもが、地域で豊かに生活できるよう、市民の発達障害に関する理解促進を目的とし、発達障害啓発講演会を開催しました。幼稚園や保育園へ講師を派遣しての講演会も含め、6回実施し、435人の参加がありました。
「つどいの広場」の開催	子育て支援センターのない地域(2地域4か所)に、乳幼児(特に0～3歳)を持つ子育て中の親子が気軽に集える場を提供し、親子同士の交流を図りました。また、子育てアドバイザーが子育て等の悩み相談に応じました。 ・時間9:00～14:00 ・腰越行政センター (月～水曜日) 利用者数2,548人 ・七里が浜子ども会館 (木・金曜日) 利用者数1,287人 ・植木子ども会館 (月・金曜日) 利用者数2,057人 ・玉縄子ども会館 (火～木曜日) 利用者数5,528人

目標 5-2

子どもたちが安全に安心して外遊びができるよう、地域と一体になって、遊び場の環境づくりを進めます。

〔小・中学校における主な取組〕

24年度
取組率

学区内自治会、民生委員、青少年育成団体等との懇談・交流 (再掲:目標1-2)	学区内自治会長等、PTA役員、校外委員、民生委員、児童委員等と地区や児童生徒の現状と課題等についての懇談、自治会長と児童の給食交流、避難所施設の確認等を行いました。	小・中学校 88%
学校区での教育懇談(話)会の開催 (再掲:目標1-3)	学校区での教育懇談(話)会を開催し、小・中教職員代表、PTA役員、自治会長、民生委員、青少年指導員等が地域での様子、地域と学校のあり方等を話し合いました。(教育講演会や懇談会等も含む)	小・中学校 80%

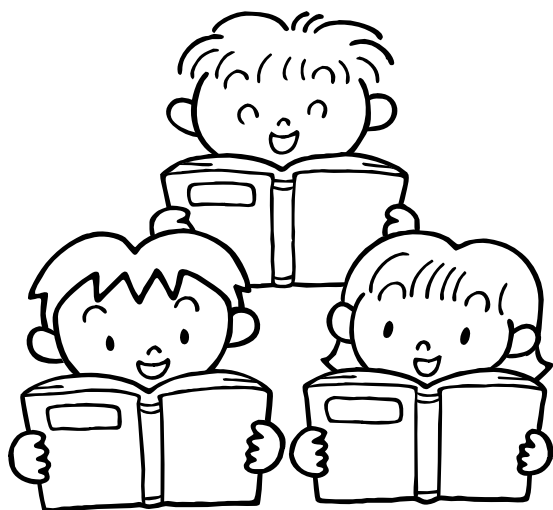
〔小・中学校の特長ある取組〕

学校体育施設開放にかかわり、運営協議会と協議の上、月2回程度地域の子どもたちへの開放を実施しました。
青少年指導員が主催した行事に会場提供し、子どもへの参加周知に取り組みました。

〔市や関係機関における取組〕

『かまくら子育てナビ きらきら』の発行	主に妊娠から就学前までの子どもの子育てに役立つよう、子育て支援情報誌を発行しました(平成23年度作成及び平成24年度配布数:17,000部、平成24年度作成及び平成25年度配布数:17,000部)。この情報誌には行政の子育て情報、地域の子育て支援・サークル情報、公園・遊び場情報などが載っています。
子どもの遊び場と広場や公園	現在、市で供用開始している公園や緑地は243箇所(平成25年3月31日現在)あります。主なものとしては、海岸との景観を配慮した鎌倉海浜公園、自然観察のできる散在ガ池森林公園、鎌倉駅から近距離に位置する源氏山公園、野球場や庭球場などのスポーツ施設のある笛田公園、谷戸や里山の自然を生かした鎌倉中央公園、展望デッキからの眺望が素晴らしい六国見山森林公園があり、市民の憩いの場として、親しまれ活用されています。平成24年度には、街区公園である台ポニー公園を開設しました。また、鎌倉海浜公園由比ガ浜地区でバスケットゴール、高野公園及び相模陣東公園でムービング遊具、長谷なでしこ公園ですべり台などを設置しました。そのほかに、子どもたちが主人公として遊べる児童遊園類(子どもの広場・青少年広場など)を36箇所設置しています。
ハイキングコースの整備	「天園ハイキングコース」「葛原岡・大仏ハイキングコース」「祇園山ハイキングコース」の3つのハイキングコースの清掃を行い、快適なコースを提供しました。 天園ハイキングコース8回、葛原岡・大仏ハイキングコース8回 祇園山ハイキングコース8回
子ども会館	子ども会館は、地域の子どもたちが自由に遊べるスペースです。設備は、場所によって多少違いはありますが、プレイルーム、図書室、卓球室などが整備されています。また、一部の子ども会館では、地域の育児サークルなどに場所を開放して、幼児期における豊かな遊びの経験の場を提供しました。
防犯対策 (再掲)	警察等と連携し、児童生徒・教職員等への誘拐連れ去り防止教室や不審者侵入対策訓練等を実施しました。 誘拐連れ去り防止教室 20回 不審者侵入対策訓練 23回
鎌倉市安全安心まちづくり推進協議会 (再掲)	平成20年6月に策定された「安全・安心まちづくり推進プラン」に基づく各事業の進捗状況の確認及び取り組みの推進等を諮りました。 研修会 1回

<p>犯罪情報等の提供 (再掲)</p>	<p>防犯意識の普及・啓発を行うため、市のホームページなどを活用した犯罪発生状況や不審者等の情報提供及び登録者のパソコン・携帯電話に不審者や注意喚起等の情報をメール配信しました。</p> <p>メール配信回数 51回 (不審者情報29件 注意喚起情報22件)</p>
<p>放課後子ども教室 推進事業</p>	<p>稲村ヶ崎小学校といなむらがさき子どもの家「いなほ」に通う全児童を対象に、放課後や週末の安全で安心な子どもの居場所づくりを目指す事業で、稲村ヶ崎小学校の特別教室と校庭等を使用して、文化的・体育的な活動を実施しました。</p> <p>8教室 平日42日・土日等23日 参加人数 延べ1,155名</p>



平和都市宣言

われわれは、
日本国憲法を貫く平和精神に基いて、
核兵器の禁止と世界恒久平和の確立のために、
全世界の人々と相協力してその実現を期する。
多くの歴史的遺跡と文化的遺産を持つ鎌倉市は、
ここに永久に平和都市であることを宣言する。
昭和33年8月10日

鎌倉市

鎌倉市民憲章

制定 昭和48年11月3日

前文

鎌倉は、海と山の美しい自然環境とゆたかな歴史的遺産をもつ古都であり、わたくしたち市民のふるさとです。すでに平和都市であることを宣言したわたくしたちは、平和を信条とし、世界の国々との友好に努めるとともに、わたくしたちの鎌倉がその風格を保ち、さらに高度の文化都市として発展することを願い、ここに市民憲章を定めます。

本文

- 1 わたくしたちは、お互いの友愛と連帯意識を深め、すすんで市政に参加し、住民自治を確立します。
- 1 わたくしたちは、健康でゆたかな市民生活をより向上させるため、教育・文化・福祉の充実に努めます。
- 1 わたくしたちは、鎌倉の歴史的遺産と自然及び生活環境を破壊から守り、責任をもってこれを後世に伝えます。
- 1 わたくしたちは、各地域それぞれの特性を生かし、調和と活力のあるまちづくりに努めます。

鎌倉市教育委員会 教育部 教育総務課
〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号
TEL 0467-23-3000内線2454 FAX 0467-24-5569
<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/>
e-mail : kyouiku@city.kamakura.kanagawa.jp